



いつもおおきな根っこが話題に

学 園 長 小 島 澄 人

度々、幼稚園・保育園・行政・企業、時折外国からの見学では無く視察・研修目的での来客が来園します。そこでいつも話題になることが「この根っこ、このままですか」、柿の実幼稚園の裏山や自然探検村、畑や果樹、山の斜面の幼稚園ですので当たり前前の光景です。時には手を加えますが、檜や杉、竹、様々な木々が一杯です。地面に根っこが横に広がっていても「これが自然、ごつごつしたこの根っこは、大きくなったこの木がこの地に生き続けた証、そうした自然の中で遊んでいるこの子たち程幸せ者はいない、有り難い」、そう考えています。むしろそうした光景を、自然を求めています。研修に来られた園長先生たちには「危険・怪我・安全・苦情」の言葉が同じように浮かんで来るようです。先日、保育園の園長たちからも同様でした。

遊ばないで怪我の危惧、その気持ちはよくわかります。幼児教育は今も大事ですが、大きくなっていく中での育てて欲しいものへの取り組みも求められます。「生きる力」、卒園後にそうした自然の中での出会いがあるならまだ学びの機会があるかも、けど安全をよく考えながらも、あえて安全を自分の力で確保できる子どもたちになって欲しい。教室で学ぶ、保育室で学ぶ、同年代の子どもたちとの触れあいから学ぶ、先生からの学ぶ、加えて自然や遊びの中から学びます。

先日、25日東京ドームで5万人と大合唱した歌を紹介します。中・高校教師時代、結婚という祝いの場で、大勢の高校生・中学生が歌ってくれた歌「ごらんよ空の鳥」の合唱が思い出されました。どんなものにも大切な命がある。人にも動物にも植物にも。すべての方にすべてのものに優しくありたい、あったかくありたい。それが私の生きる目標ではあるが、一番難しい目標でもあります。毎日がその葛藤です。そんな葛藤の毎日の自分にも空の鳥のように、もし神がいたら「こころをかけてくれる」かな。紹介します。

「ごらんよ空の鳥」

ごらんよ空の鳥 野のしらゆりを まきもせずつむぎもせずにやすらかにいきる
こんなに ちいさな いのちにできえ こころをかける ちちがいる

※ともよともよ きょうもたたえてうたおう すべてのものに
しみとおるてんのちちの いくしみを

ごらんよ空の雲 かがやくにじを 地にめぐみのあめをふらせあざやかにほえる
どんなにくるしいなやみの日にも きぼうをそそぐちちがいる

※くりかえし



寒くなりました。風邪には気をつけてください。子どもたちの笑顔を願って。